

DC 221  
13

南洋事情

国立国会図書館



0022365-000

DC 221-13

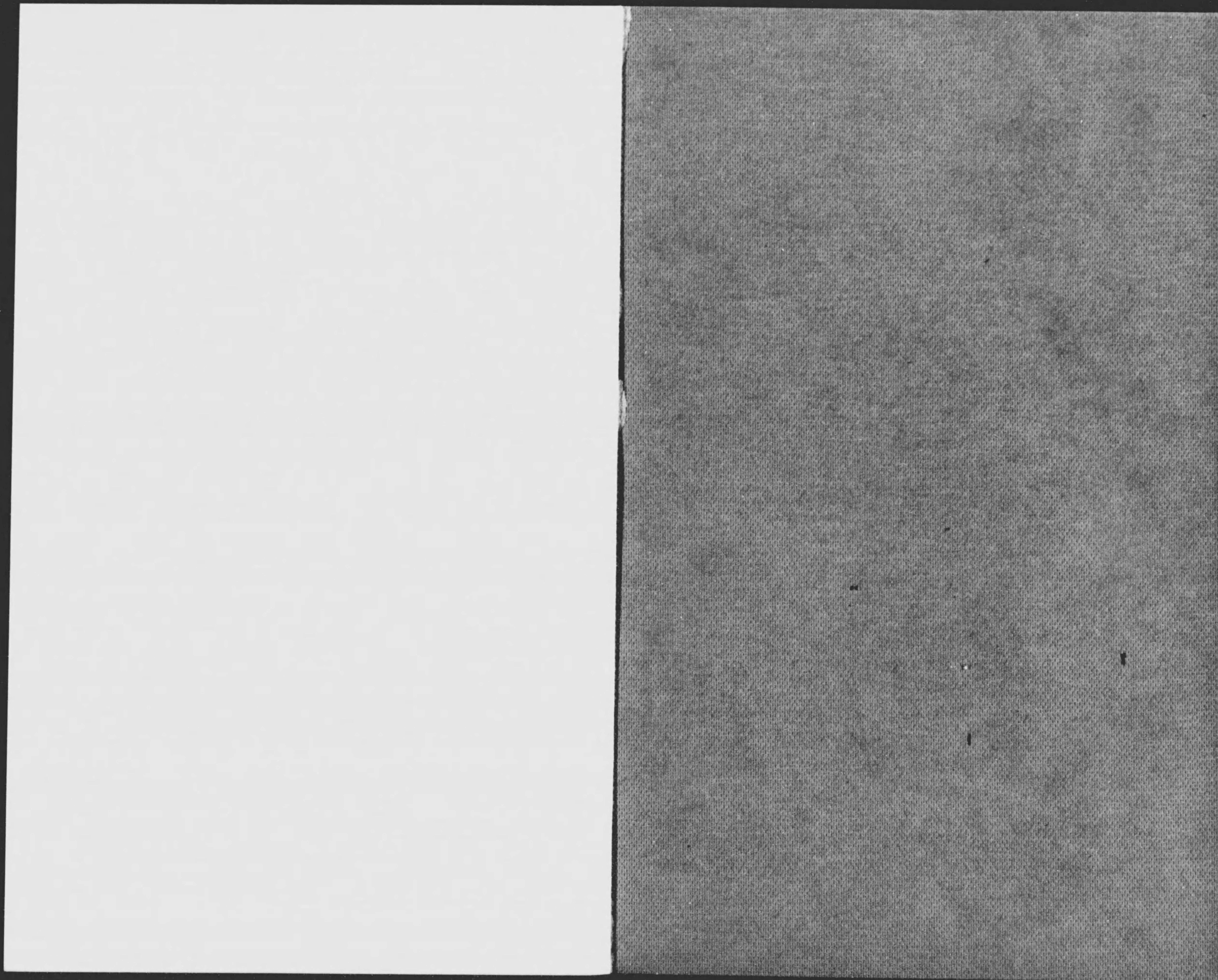
南洋事情

陸軍省軍事調査部

1934

ADC







DC221  
13

南洋事情

昭和九年六月十五日  
陸軍省軍事調査部



DC22/  
13

本冊子の内容に就ては、尙ほ推敲の餘地なしとせざるも、日蘭會商も既に開催の折柄、南洋事情紹介の一端として不取敢配賦すること、せり。

332.23



1028429

# 南洋事情

## 目次

- 一 前 言.....一
- 二 比律賓に就て.....一
- 三 英領馬來に就て.....二
- 四 蘭領東印度に就て.....三
- 五 佛領印度支那に就て.....九
- 六 暹羅に就て.....二一

目次

一



## 南洋事情

### 一 前言

戦近に於ける皇國の發展、就中商品の海外進出は眞に目醒しいものがある。同時に皇國の飛躍に對する列國の嫉視反感は日に増大し、國際聯盟の日本孤立政策、英國の對日經濟宣戰布告、其音頭に動く列國の對日關稅障壁の植立、果てはブラジルの移民制限等ミなつて現はれつゝある。

國際聯盟の企圖した皇國に對する經濟封鎖は成立しなかつたが、今や皇國經濟發展を阻止せんとする經濟封鎖は、別個の意味を以て著々ミして其包圍圈を緊めつゝあるのである。

支那、印度ミ共に東亞に於ける皇國の三大市場たる南洋方面に於ては、フィリツピンの獨立承認、日蘭會商開催、南洋委任統治問題等皇國々策に重大なる關係を持つ問題踵を接して續出しつゝある。

南洋は滿蒙ミ共に、皇國の生命線であるミは、最近に於ける國民のモットーではないか、國防上よりするも、皇國の經濟的發展を期する爲めにも、南洋を閑却してはならぬ。此意味に於て本冊子が、多少でも國民の南洋方面に對する認識を高める上に裨益する所があれば幸である。

### 二 比律賓に就て

マニラ行の船客は、先づマニラ灣の入口に於て、舷窓に横はるコレヒドール要塞の威容に壓せらる



るのを覚えるであらう。米國が難攻不落を誇るコレヒドール島は、マニラ灣口諸要塞の中堅として、米國が極東に有する武力の結晶であり、従て彼が極東に對する積極外交も、強い發言も、皆此の叢爾たる小島から湧き出るのである。而して首府マニラを擁する呂宋島には陸軍兵力約一師團を駐屯せしめて居る、其の内譯の概要を示せば

- 比島軍司令部
- 比島師團司令部
- 歩兵三聯隊
- 騎兵一聯隊
- 野砲兵一聯隊
- 海岸砲兵四聯隊
- 工兵一聯隊
- 混成飛行一大隊
- 化學戰一中隊
- 通信二中隊

右の内飛行機の優勢なこも、化學戰部隊を有するこもなきは特に注目を惹く所である。海軍はアジア艦隊の根據地をキャビテ(マニラ灣に在り)に置いて居る。

一口に比島と言つても、大小七千餘の島々から成つた群島であつて、其總面積(二十九萬六千平方)即ち我が本州、北海道、四國を合したものに匹敵し、群島中の雄たる前記呂宋だけでも、九州と北海道を合した面積に近いのである。群島の位置は臺灣から一葦帶水の、北緯二十一度より四度三十分交互る熱帶地を占めて居る。

比島の總人口約千三百萬、人口密度一平方杆四十二人であつて、我が國の人口密度百三十七人(内地のみならば百七十人)に比し三分の一以下の稀薄さである。人種は馬來人を主とし、稍、多量の蒙古種を混じ、其九割迄はキリスト教を信じ、東洋に於ける唯一のキリスト教國を自負して居る。

比島に於ける産業の大宗は農業であり、米、椰子、甘蔗、マニラ麻、煙草、玉蜀黍等を主要農作物として居る。農業に次いで林業があり、群島總面積の二分の一以上は森林帯であり、畜産も亦盛で水牛約百九十萬頭、牛百萬頭、馬三十萬頭、其他豚、山羊、羊も相當數に達して居る。又鑛産は貧弱で石炭、鐵、石油の如き重要品も年々多額の輸入を見て居る。漁業はマニラ灣其他で行はれ、主として日本人の掌中に歸して居る。

貿易總額は昨年度に於て約三億六千萬ペソ(邦貨平價一圓、時價約一圓七十錢)に上り、其内輸入一億五千萬ペソ、輸出二億一千萬ペソであつて、其主なるものは左の如くである。

主要輸出品

(昭和八年度)

種	類	價	格
砂	糖		(ペソ)
		一二八、六六七、九三一	



椰子油	椰子乾實	マニラ麻	煙草	裝飾品	椰子實片
一八、三四九、三八一	一七、九一二、〇五七	一三、七四七、七一九	一〇、三五五、七八七	三、六六一、三三七	三、三六五、六〇九

四

主要輸入品

綿及同製品	鐵及同製品	鑛物油	日用品	自動車及車輛類
三一、一五七、六五一	一七、八九一、五〇九	一〇、七七七、七〇三	七、六二二、九六七	六、六八四、九六八

紙類及同製品	小麥粉	絹類及同製品	煙草類	植物纖維製品	化學品藥品染料類
四、八六〇、五三七	四、七七〇、九九〇	四、七七〇、三五七	四、二三四、三九六	三、九七一、四二〇	三、九二八、六六八

更に貿易を國別に觀察すれば次の如くである。

輸出 (單位ペソ)

米國	日本	西班牙	佛國
一八二、六二六、〇五三	五、九二一、七八二	四、四一九、三六七	四、二九五、八三九

南洋事情

五



英	獨	支
國	國	那
三、七一三、三五二	一、八五四、二八九	一、六八四、三四三

六

輸入 (單位ペソ)

米	日	支	獨	英	英	蘭
國	本	那	國	國	領	領
八七、〇八〇、八一三	一九、一九〇、六六六	一〇、二九二、〇九〇	五、四八九、九四八	五、一一五、〇四六	三、七一五、五〇八	二、六〇〇、三一七

右の統計を見て明瞭なる如く、日本、支那及英獨等は比律賓に多くを賣り、少く買つて居るのに對

し、米國は比島の輸入に於ても斷然一位を占めて居るが、更に其倍額以上(總額の八十六パーセント)を比島から買つて居るのである。是に由つて之を見るに、比島の經濟は、米國に依存して居る言ふも過言でない。此一事は、後掲比島獨立問題も切實なる關係を有して居るのである。多少脱線の嫌ひがあるが、近頃米國邊りでは Give and take 即ち「與へて取れ」いふ言葉を貿易の標語として居るやうであるが、或場合には其逆をこられて居る。例へば米國は南米のアルゼンチン等に於て、英國を激しい經濟的競争を演じて居るが、米國はアルゼンチンの果物に對し、害虫豫防いふ名目で輸入禁止をして居る。之に反し英國は獸肉類の最大の顧客である關係から、アルゼンチンは、動もすれば米國に對して報復の意味で、英國に好意を示す事が多いのであつて、之には流石の米國も弱つて居る。將來更に大いに躍進すべき日本の海外貿易の爲にも、米國の Give and take がいふ標語が可なり目障りになるのである。然し乍ら昨今の如く、ブロック經濟の世習辛い世の中になつては、甚しい片貿易は永續性が少ないと申さねばなるまい。此點は我國に於ても大いに考慮を要する所であらう。

米國と比島との經濟的關係は、貿易關係を除いても中々密接なものがあり、比島海運界の如きも、米國の跳梁跋扈する所であるが、對比島投資に於ても斷然他を壓して居るのである。米國の投資額は、昭和四、五年頃七億四千六百萬ペソに達し、一昨年調で米國資本に依る製糖工場數十二、其投資



額六千七百六十萬ペソを算して居る。

次に最近の大きな話題である所の、獨立問題に就て若干述べて見よう。

比島の獨立は、比島民が多年翹望してゐる所であつて、昨年米國議會を通過した獨立法は、陸海軍根據地問題及經濟問題等に關して、比島議會の反對する所となり、遂に不成立に終つた。

然し比島は飽く迄獨立を希望し、昨年末上院議長ケーソン氏一行を米國に派遣し、極力運動した結果、ルーズヴェルト大統領は、遂に議會に比島獨立に關する教書を送り、之に基き新なる獨立法案は作製せられ、米國上下兩院の通過並米大統領の署名を得て、去る三月二十四日米國に於て、再び比島獨立法が成立するに至つた。

此の新獨立法は、昨年のもので大なる差異なく、殆ど同一であるが、不思議にも比島政治家は之を歓迎し、遣米委員であつたケーソン氏は歸國に當つて、凱旋將軍の様に迎へられ、比島特別議會は五月一日、滿場一致で獨立法を承認するに至つた。

比島獨立法の要旨は左の通りである。

一、比島は來る十月一日以前に憲法會議を召集して新憲法を起草す。

該憲法は本法制定後二年以内に米國大統領に提示し、其の認定の後四箇月以内に比島人の一般投票に附す。

二、比島は憲法制定後約六箇月以内に新政府を組織し、米國は新政府成立の日より十箇年の期限満了直後の七月四日に比島の獨立を容認す。

米國の輸入制限

三、過渡期に於ける米國の無稅輸入品を精糖五萬米噸、粗糖八十萬米噸、椰子油二十萬米噸、麻類三百萬封度に制限す。

但此種無稅輸入品に對し、獨立實施後六年目より比島側に於て輸出税を課し、米國法律に依り外國より米國に輸入せらるる、物資に課する課税の五分を賦課し、爾後十年後に二割五分に至らしむ。

移民割當

四、比島人の移民割當數は過渡期に於て五十人とし、獨立後は其他の外國人に對する法律を適用す。

五、米國大統領は比島新政府の成立と共に、比島駐在米國最高委員を任命派遣し獨立後之を廢止す。

該委員は米國大統領の意圖を奉じて其の職を執り、比島政府及其下級機關の書類を點檢し又は之等に對し、所要の資料を請求することを得。

陸軍根據地  
海軍根據地  
の放棄  
の保有

六、米國は比島獨立と同時に同島の米國陸軍根據地は之を放棄するも、海軍根據地及給炭所は依然之等を保有す。

但獨立二年の後、大統領は比島政府と此問題の解決に關し交渉を開始することを得。

七、比島獨立成立後、大統領は永世中立に關し條約締結の爲め、列國と商議するを要す。

八、本法は比島議會の協同決議又は憲法會議に依り受諾せらるる、迄效力を生ずることなし。



右の如くであるから、之を以て比島は直ちに而も完全に獨立することが出来ることを考へるのは早計である。

今後憲法會議の召集、其の代表者の選定、憲法の起草策定、米國大統領の憲法認定、比島人の一般投票等、幾多の順序を経たる後、比島新政府を組織し、然る後愈、獨立の過渡期に踏込み、其の後滿十年を経て漸く獨立を許可される言ふことになるのである。

右の如く、陸軍根據地は獨立と同時に撤去することになつて居るが、海軍根據地の撤去に就いては、獨立後二年の後に協議することになつて居る。即ち之を撤去するか否かは全然未知數である。蓋し海軍根據地は米國の最も重要視する所の極東進出の據點であり、米國としては餘程有利なる條件を得るにあらざれば容易に之を手放さないと思はれるのである。

又、比島獨立に伴ふ、比島商品に對する米國の課税は、米比貿易關係に大なる變動を齎すに至るべく、就中製糖業は比島の重要産業であるに拘らず、目下米國は米國資本によるキュバ糖の壓迫を受けつゝある爲、比島糖の輸入を欲しない。椰子油及麻に對しても同様である、從て獨立に伴ふて當然、米比貿易は凋落すべく、少くも三四十パーセントの減額ある可しと言はれて居る。斯る場合比島は大なる經濟危機に直面すべく、獨立の前途は樂觀を許さぬものがあるのである。

抑、比島獨立問題は、米國側よりすれば比島獨立に關連する諸工作により、經濟的煩累及移民問

比島獨立の目的

題より免れんことを希望するが、一方海軍根據地は手放し度くないといふ相反する要求を有して居る。之に反し比島側は、獨立は多年の宿望であるが、一方米國との經濟關係は保續したいといふ希望を持って居る。從つて兩者の要求は全く相反して居るのである。從つて既述の如き、米國側としては比島に將來獨立の約束を與へて民族的欲求を満足せしめ、一方經濟的煩累よりは直ちに離脱し、而して根據地問題は將來の交渉に委せんとする、所謂一石二鳥三鳥の策に出でたものである。今後の國際情勢は勿論、米國自體の國內事情の變化も今より逆睹し難いものがある。果して米國の口約の如く十餘年後に、完全なる比島の獨立が實現するや否や、刮目して待たんとするものである。

最後に在留邦人の狀況を概説すれば、移民の目的を以て多數邦人が入國したのは、一九〇三年道路工事の爲數百名が渡航したのが最初であつて、爾來麻、砂糖の栽培、漁業、大工等を志して渡航する者年々共に増加し、昭和五年初に於ける在留邦人數は、約一萬六千に達して居る、其大部約一萬二千はミンダナオ島のダヴァオ州に於て、馬尼刺麻の栽培並に其下働きに従事し、三千數百名はマニラ附近に在つて、商業、漁業等に精勵して居るのである。

就中ダヴァオは、宛然日本の植民地の觀があると言はれる程に、日本人の多い所であつて、從來其盛況を實見した米人比人中には、これに眩惑せられて、排日的の立法を企圖した者があつた程であるが、現在の所實現せられて居るものはない。



比島人一般の、日本人に對する感情は概して良好であつて、其由來する所は米人を對象としての好感である。従つて假りに比島が獨立するにすれば對日感情も自ら變るものも考へられるのである。

### 三 英領馬來に就て

英領馬來は海峽植民地、馬來非聯邦州、馬來聯邦州の三つに大別するこゝが出来る。海峽植民地といふのは、シンガポール、ペナン、マラツカ、ラブアンであつて、英領馬來聯邦といふのはペラツク、セラングール、ネグリセンプラン、パハンの諸州、又馬來非聯邦州といふのはジョホール、ケダ、ケランタン、トレンガン、ペルリスの諸州を謂ふ。英領馬來は面積約十三萬六千方、人口は僅に三百五十萬を出でない。シンガポールは面積我が佐渡島に略、同一であり、人口は四十二萬五千九百を有する。其内主なる人種は馬來人が約五萬八千人、支那人が三十一萬七千人、印度人三萬二千人、歐米人六千人、而して日本人は約三千人である。海峽植民地は純然たる英領、馬來諸州は英國の保護領であり、諸州の支配者は名目上主權者であるが、實際は英國の保護を受けて居るのである。

氣候は十一月より三月迄は東北季節風の時期であつて、此の季節は雨に富んで居る。五月から九月迄は西南の季節風が吹き、此の時期は乾燥して居る。氣温は四季殆ど變化なく年中夏であるを考へればよい。

土人の衛生思想は極めて幼稚であつて、半島には赤痢、結核、脚氣などの病氣が多く、都市は衛生

施設が改善せらるゝに従つて傳染病は逐次減少しつゝ、ある。馬來半島には農業、殊に護謨、椰子、米の栽培が行はれ、礦業としては錫、金、鐵、石炭等を産し、水産業としては漁業が日本人の手に依つて多く營まれて居る。シンガポールに於ける日本人の数は前述の如く約三千人であるが、其内約一千人は漁業を營んで居り、此の方面に於ける漁業は大いに將來を持つて居る。支那人の勢力は其の住氏の多いこゝ、華僑の勢力の大なるこゝ、支那人勞働者の堅忍持久力あるこゝ等に依つて侮るべからざる勢力をもつて居る。併し華僑の勢力は過去の日支事變に排日貨を行つた際、日本人が商業的に發展して華僑の勢力を奪つた爲に、今日では排日貨運動の失敗を後悔し、従て排日運動も漸次下火となりつゝ、ある。

### 四 蘭領東印度に就て

蘭領東印度はジャバ、スマトラ、ボルネオ、セレベス、ニウギニア等を包括する大群島を總稱する。總面積百九十萬平方、和蘭本國の五十八倍、日本の約三倍に當り、人口は六千七百三十八萬人を有する。内ジャバ及マズラは人口最も稠密であつて四千七百七十一萬人を有し、一平方、ニウギニアの人口は總て、一千九百萬人である。右の通りであるからジャバの人口は飽和状態に達して居り、最早や植民の餘地はないと見るべきであるが、スマトラ、ボルネオ、セレベス、ニウギ



ニア等には尙ほ植民の餘地十分であつて、此次に開拓せらるべき地方はスマトラであるを考へられる。セレベス、ニウギニア等はまだ内部の探險も十分に出来て居らず、單に海岸地方が開拓されて居るだけである。

蘭領東印度は土地豊饒であつて農産、林産、鑛産の諸資源に富む世界有数の原料國である。就中農産品の産出は有名である。砂糖は玖瑪と共に世界の二大供給中心地であり、ゴムは英領馬來に次で世界第二位を占め、コーヒーは南米諸國以外之に匹敵するものなく、茶は世界第三位、コブラ、胡椒は共に世界一、煙草、椰子油亦第二位を占めて居る。従つて經濟問題の中心は、農産物の市況如何に依つて決定するに云ふても過言でない。従つて現在農産品物價の下落は、農民にさう一大打撃をなつて居る。護謨は好況時代には一ポンド二圓四、五十錢もしたものが、今日は僅々十四、五錢である。又砂糖も生産過剰で相當にストックがある。土人は一日汗水流して働いても五錢乃至十錢の賃銀しか得られないといふ實狀である。此の農産品の下落は土人の購買力の低下を招來し、將來蘭領東印度の産業を如何に改革するかといふことが目下の重大問題となつて居る。

日本から蘭領印度に輸出する主なる品種は綿布雜貨であつて、綿布は約四千萬ギルダ（一ギルダは時價約二圓三十錢）雜貨を合して一億萬ギルダを上下して居る。蘭領印度を市場とする國は、日、和、新嘉坡、英、獨、米等であつて、一九三一年迄は和蘭が首位を占めて居たが、一九三二年以

來日本は絶對的優位を獲得するに至つた。是は日本品が優良であつて且つ廉價な爲であり、此の大勢を以て進んだならば、日本からの輸入は將來益、増加するといふ形勢を示して居る。最近三箇年間の主要列強ニ蘭印との貿易別紙の如し。

最近三箇年主要品輸入表(單位千盾)<sup>ギルダ</sup>

國名	年次	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
日本		一〇〇、一五三	九二、五五一	七八、四三七
和蘭		一六三、三一五	九八、五五七	五八、一三〇
新嘉坡		九一、二一〇	六一、八八二	四六、二三七
英國		八九、九二四	四三、九四一	三五、四六五
獨逸		八六、〇二五	五一、九五三	二八、三八八
米國		九〇、三六三	五一、三七九	二四、五九五

最近三箇年主要品輸出表



國名	年次	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
和蘭		一七七、八六五	一三〇、四三二	一〇三、五〇三
新嘉坡		二四六、〇一一	一四一、〇九〇	八九、八四七
米國		一四一、五四六	八七、九二三	六五、五九五
英國		九六、三五五	六八、五四七	四八、三〇七
印度		一三二、八四一	五八、一四七	三八、三三四
日本		四六、二二三	三三、〇五一	二三、六五八

蘭領印度から日本への輸入は砂糖が主なるものであつたが、我が臺灣の製糖業が発達するに従つて、日本への輸入は漸次減少するに至つた。即ち一九二九年頃には約三千五百萬盾の砂糖を蘭印より輸入して居たが、一九三一年には千二百七十萬盾に減少して居る。之を要するに一九三二年度に就て見るに、日本よりは約七千八百萬盾を輸出しあるに反し、蘭印よりは僅かに約二千四百萬盾を買つた事になつて居る。参考の爲め日本綿布進出の状況を列國と比較して左に表示して見よう。

其他の商品に就ても同様の景況に在るが紙面の都合で省略する。

綿布國別輸入高(サロン類を除く)(單位千盾)

國名	年次	一九二八年	一九二九年	一九三〇年	一九三一年
日本		四〇、五〇五	四七、二三五	三九、一八二	三八、〇三七
和蘭		四一、三七五	四一、六八八	三一、一六二	二一、〇〇三
英國		四五、四五九	三九、七九四	二三、一六五	九、九〇七
海峽植民地		六、七六四	七、四八六	六、二九八	五、〇四六
伊太利		一〇、六一四	八、九二二	四、八三一	一、九八八
瑞西		六、六〇一	三、八四一	一、八七九	一、三五六
支那		二、三一六	一、八一六	一、四二〇	一、一七〇
合計(其の他を含む)		一五七、六七八	一五六、四九一	一一一、三四一	八〇、四四九

尙ほ綿布の蘭印輸入を、日英蘭三國に就て數量によつて比較して見るこ



國名	年次		
	一九三〇年	一九三一年	一九三二年
日本	二二二、五七六 <small>(千ヤード)</small>	二五八、四三六	三〇五、六九〇
英國	八九、〇三二	四六、三三七	三八、一六〇
和蘭	一三一、三〇〇	一〇八、五九二	六二、六五五
總輸入高	五二〇、〇八六	四七七、六二一	五五八、四七七

此の状態に鑑みて日本品の進出を阻止する爲めに、一九二八年頃から輸入税の問題が起り、今やビール、セメント及綿布に割當制度を採用して、日本品の數量を制限するに共に、日本品を取扱ふ商人の割合をも定めることになつた。此の割當制度が採用され、一方土人の購買力が減退して居るので、日本品の進出は著しく制肘を受けることになつた。加之、蘭印を唯一の市場とする、和蘭本國綿業者は、苦境打開の爲め、日本綿製品其他の驅逐の爲め和蘭政府に迫り、遂に日蘭會商の開催になつた。目下バタビヤで前記の會商が行はれつゝある。和蘭政府は日本商品の阻止に必死の努力を傾注しつゝあるが、然し日本品は優良で且廉價であるから、一般に蘭領東印度の土人は日本品を歓迎して居る。茲に和蘭政府の弱點があり従つて大なる苦惱が存するわけである。

蘭領東印度は熱帶地であつて、地味は豊饒であり、衣食に窮せず、植民の爲には天然の恩恵を有して居る。現在の蘭領東印度政府は餘りに日本の進出を警戒し、大々的な農業移民は政治的に不可能の状態にある。然し自然的の要件は具はつてゐるのであるから將來適切なる外交工作により大々的の移民を可能ならしむる様努力の必要があるを考へられる。

### 五 佛領印度支那に就て

佛領印度支那は交趾支那植民地、東京、安南、カムボジア、ラオスの各保護領を含み、其面積は七十四萬四千方方、即ち佛蘭西本國の一倍半であつて、我が朝鮮、臺灣、樺太、委任統治地域を含む日本の總面積よりも大なること六萬五千五百二十二平方方である。其氣候は北部は寒暖の差が劇然として居つて、冬季十一月から四月迄は溫和で乾燥して居るが、夏期五月乃至十月頃迄は暑熱甚だしく濕潤して居る。南方の交趾支那は寒暑の差が少く、四時暑熱の地方であつて、夏季は却つて北部よりも清涼である。

此の佛領印度支那に於ける人口は、千九百二十九年の調査に依れば約二千萬人であつて、其の密度は一平方方に付き約二十七人である。住民は山岳地方には蠻人が住んで居り、其外カムボジア人、ラオス人、安南人及諸外國人が住んで居るが、大部分を占めて居るのは安南人である。此の安南人は蒙古族に屬し、體格は小さく質素勤勉であるが、不正直で經濟觀念に乏しく、多年佛國の壓制に押れて



氣慨に乏しい。其の四分の三は佛教を信じて居る。

佛領印度支那の統治は總督之を行ひ、軍隊は正規軍と民兵隊に分れて居る。歐洲人は將校以下約九千人、兵員は約三萬人である。兵役制度は徴兵制度を採用し、佛人は滿二十歳より兵役に服し、兵役年限は一箇年。安南人は數箇年兵役に服し二十二歳以上二十八歳迄のものより徴集しつゝ、ある。

教育としては尋常小學校の數が五千五百、在學兒童の數が三十五萬餘であつて、中等教育、商業教育の施設は十分でなく教育の普及は概して十分でない。

財政は千九百三十年の歳出が十萬八千九百五十七ピアストル(時價約一圓四十錢)、歳入が十萬六千三百九十一ピアストルで、収入の主要なものは關稅である。

昨年八月から實施されて居る日本、佛領印度支那間の關稅は品種に依つて色々差異があるが、日本から輸入する綿布の如きは殆ど禁止的な高率關稅を附せられ、低率な關稅を附せられて居る陶磁器其他の品物は極く少額のものであるから、日本の佛領印度支那に對する貿易は誠に不振の状態にあると言はねばならぬ。現在佛領印度支那に於ける日本人の數は交趾支那に約百五十名、東京地方に約百名である。其の大部分は官吏、貿易商及雜貨商であつて就中、雜貨商は日本商人の内最も發展せるものであるが、前述の如く高率關稅の爲に、邦人商人間の激烈なる競争の爲に是等の雜貨商も漸次營業困難に陥りつゝ、ある状態であつて寒心に堪へぬものがある。將來我國が佛領印度に發展しようと思ふなら

ば速に何等かの手段を講ずる必要がある。之が爲めには先づ現在の高率關稅を考慮して、土人との合辦事業を起すことが最も賢明な策ではないかを見る向もある様である。佛領印度支那は農産品、礦産品等の天然資源に多分に恵まれて居る所であるが、佛人の天然資源の開發は未だ十分でないを觀察せらるゝものが多い。

## 六 暹羅に就て

暹羅の總面積は五十一萬八千六百六十二平方軒で、日本の約七割七分に相當して居る。日本人が暹羅に渡航したのは、慶長年間長崎の人津田又左衛門が嚆矢であつて、其後有名な山田長政なども渡航し昔から吾國とは關係の深い國である。暹羅の人口は千九百二十九年の調査に依るに一千五十萬人であつて、一平方軒に二十二人の割合であり、吾國の一平方軒百三十七人に比較するに、其の密度の疎なること驚くべきものがある。此の内支那人は四十五萬人で日本人は僅かに三百人である。一度佛領印度支那から暹羅に這入るに、青々とした水田が涯なく廣々延びてゐる景色に何とも云へぬ美しさ、雄大さを感じる。氣候は劇然たる乾、雨の二期があつて、雨期は四月から十一月の半。乾季は清涼季と暑季との二期に分れ、清涼季は十一月から二月半、暑季は二月半から四月末である。暹羅は熱帯に屬して居り、冬季も人は白服を纏ひ年中蚊帳を用ひて居るさういふ状態である。

暹羅人は十三世紀に、支那から逐はれて來た所の蒙古族であつて宗教心厚く、性善良であるが、爵



勃たる發展の氣慨に缺くる所あるは惜むべきである、軍隊は歩兵八聯隊、騎兵二聯隊、砲兵四聯隊、工兵二聯隊、戰車十、飛行機約三百で、人員は約二萬五千である。又海軍には古い砲艦が四隻、驅逐艦が三隻ある。

教育は全國民が一度は僧侶なる習慣があつて寺小屋式の教育は普及されて居るが、概して教育程度は低く衛生思想に乏しい。財政状態は良好であつて、現在豫算は剩餘金を持つて居る程である。暹羅には千九百三十二年即ち一昨年の六月に革命があつた。その目的は従來の君主專制を廢して立憲君主制を建設するにあつた。革命の指導者は少壯の軍人及文官であつて、流血の慘を見るこゝなく僅に一日で完成した。暹羅の社會は階級區分が嚴格であつて、貴族、僧侶及農民に大別せられる。貴族が國政を壟斷し、偶々門閥外から才幹あるものが出て其の驥足を伸ばすこゝが出来ない。従て是に對して有爲な青年は非常な不平を持つて居るのである。歐米に留學した青年は是の急先鋒であつて、六月革命は佛國仕込の司法官ルアン・ブラジツト及武官ルアン・ヒブンの兩名が核心となり、陸軍大佐ベア・バホンを首領とし是に海軍のルアン・スーブなきが協力をして行つたものである。六月二十四日革命派はナコンサワン殿下を初め要職に在つた貴族を拘禁し、當時避暑中であつた國王に迫り、國王は革命派の要求を容れ憲法草案に署名せられた。革命の結果王黨の一員であつた所のピア・マノを國務總理とし、革命派は無任所大臣となつて、王黨と革命派との聯合内閣が組織され、同年十二月新憲法

が發布された。超えて千九百三十三年、即ち昨年四月王黨派のピア・マノは、革命派の勢力を漸次驅逐して、王黨の勢力を挽回せんとし、革命派の文官ルアン・ブラジツトを追放した。其後漸次武官の革命派をも驅逐しようとし畫策し、六月二十四日を以てピア・バホン大佐、ルアン・ヒブン中佐なきの革命派を退役せしめやうとした。ピア・バホン大佐は革命完成せば退隱せんとする意志があつたが、ヒブン中佐はバホン大佐を促して再び革新を斷行するに決し、二十四日に先立つこゝ四日、六月二十日に再びクーデターを行つて、ピア・マノを追放してルアン・ブラジツトを召還し、純革命派の政府を組織した。然るに十月に至つて再び叛亂を見るに至つたのである。十月叛亂の原因は舊王黨時代の退職又は僻遠の地に左遷された將校が、前國防大臣ポバラデイド殿下を主將とし、十月十一日兵をコーラツト市に擧げたものであつて、叛亂に加擔せるものは約二千の兵力を有し、ドンムアンの飛行場を占領し、次いでバンコツクを距る北方四キロの地點に迫つたが、十月十三日から政府軍との間に戦闘が開始され、十六日ドンムアンは政府軍の爲に占領され、二十五日叛軍はバリチオンで最後の抵抗をなしたる後、ポバラデイド殿下及約三十名の將校は佛領印度に遁れ、目下サイゴンに在つて再擧を圖つて居る状態である。最近現在の革命政府を轉覆しようとし陰謀を圖つた、約百名の徒黨がバンコツクで捕はれたが、その情況は未だ判明せぬ。

暹羅には諸外國の勢力が浸潤して居る。その最も大なるものは英國の勢力であつて、暹羅は英國よ



り約八千五百萬圓の借款をなし、其の擔保として鐵道、水路の權利を與へてあることを云はれて居る。又英人の顧問や使用人が多數暹羅政府に招聘されて居る。

大戰前獨逸が暹羅に勢力を扶植せんことをした時、英國はフランスと協定をして、英佛の暹羅に於ける勢力範圍を定め、以て獨逸の侵入を防遏した。今回の革命に於て王黨政府の倒壊と共に、從來關係の深い勢力を離れたので、現在の革命政府が倒れ、舊王黨の政府に歸ることは英國人の最も希望する所であらう。

佛國は佛領印度支那方面より勢力を西漸し、舊暹羅領であつたカムボジアを占領し、暹羅の東部を勢力範圍として居るが、その實勢力は見るべきものなく、サイゴンに亡命してゐる叛亂者を佛領印度支那政府が庇護してゐることは、著しく暹羅現政府の感情を害して居る。

米國は六月革命の後米國の顧問を暹羅に入れたが、其の勢力は大なるものではない。現在の政府は是等英、佛の勢力を驅逐し暹羅人の暹羅を建設することに努力しつゝある。

暹羅に於ける支那人の總數は四十五萬人であつて、バンコックに於ける經濟上の權利は、殆んど支那人に屬して居る。現政府は此の支那人を驅逐し、其の經濟的な力を殺ぐ爲に、支那人の入國税を高くするといふ様な方法で、支那人の入國防止に努めて居る。

現在の政府の基礎が確實なりや否やは、今遽かに判斷し難いのであるが、暹羅の軍隊が健在する限

り將來又十月動亂の如きものが起るにしても、是を鎮定することは容易であつて、今の所暹羅政府の基礎は大體に於て動かないものと觀察せられる。

前述の如く暹羅には日本人が約三百名居住して居るが、まだ是を云つて大なる事業を起して居る者はない。幸ひ現在の政府は我國に對しても好意を有して居るから、此の機會に於て暹羅に投資を行ひ日、暹提携して大いに將來の發展を圖ることが必要であるを考へられる。

暹羅貿易に就て述べれば、一九三〇年輸入一億七千四百七十萬バート（バートは時價約一圓六十錢）、輸出一億八千三百萬バートで、輸入では一般商品が九割を占め、輸出では米が六割六分を占めて居る。

對日貿易は大戰前は日本の地位は輸出入共第九位程度で、對日輸出五十九萬五千バート、日本よりの輸入二百十萬バートに過ぎなかつた。戦後増加し一九二九—三〇年には輸出入共千六百萬バートを超え、對日輸出は第五位乃至第八位の間に、日本よりの輸入は第四位乃至第六位の間に在る。

英帝國よりの輸入は著しく、大戰前に於て總額の約七割を、最近に於ては約六割を占めて居る。日本よりの主要輸入品は、綿製品、雜貨等で對日輸出の主要なるものは米チーク材其他である。

邦人の對暹發展は遺憾乍ら十分でない。之は同國に對する認識の十分ならざる點に起因するものが多いを考へられる。年額三千萬圓内外の貿易に三百名の在留邦人ある外、英人に見る如き企業投資

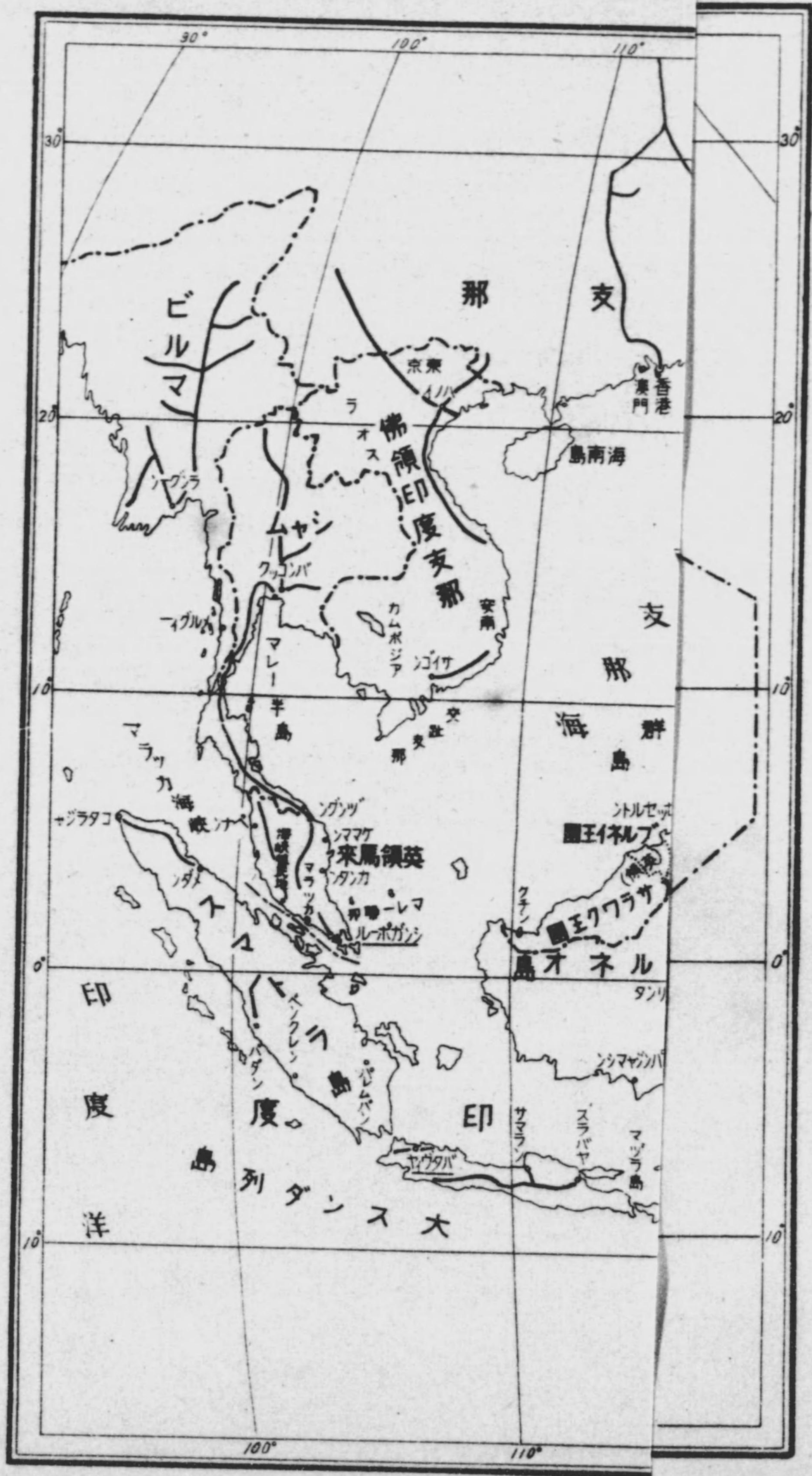


も、米、佛人に見る如き文化施設もなく、往時御朱印船時代の活躍を想ふ時、今後一層の努力を要するものも考へられる。

就中日暹兩國は宗教を同じくし、人種的にも兄弟の關係に在り、國際聯盟に於て我國に對し表明せる同情と好感と、又南洋中邦人に對し内國人同様の待遇と最惠國待遇とを與へ居る同國と、共存共榮の實を擧ぐる事は我國の責任と考へられるのである。

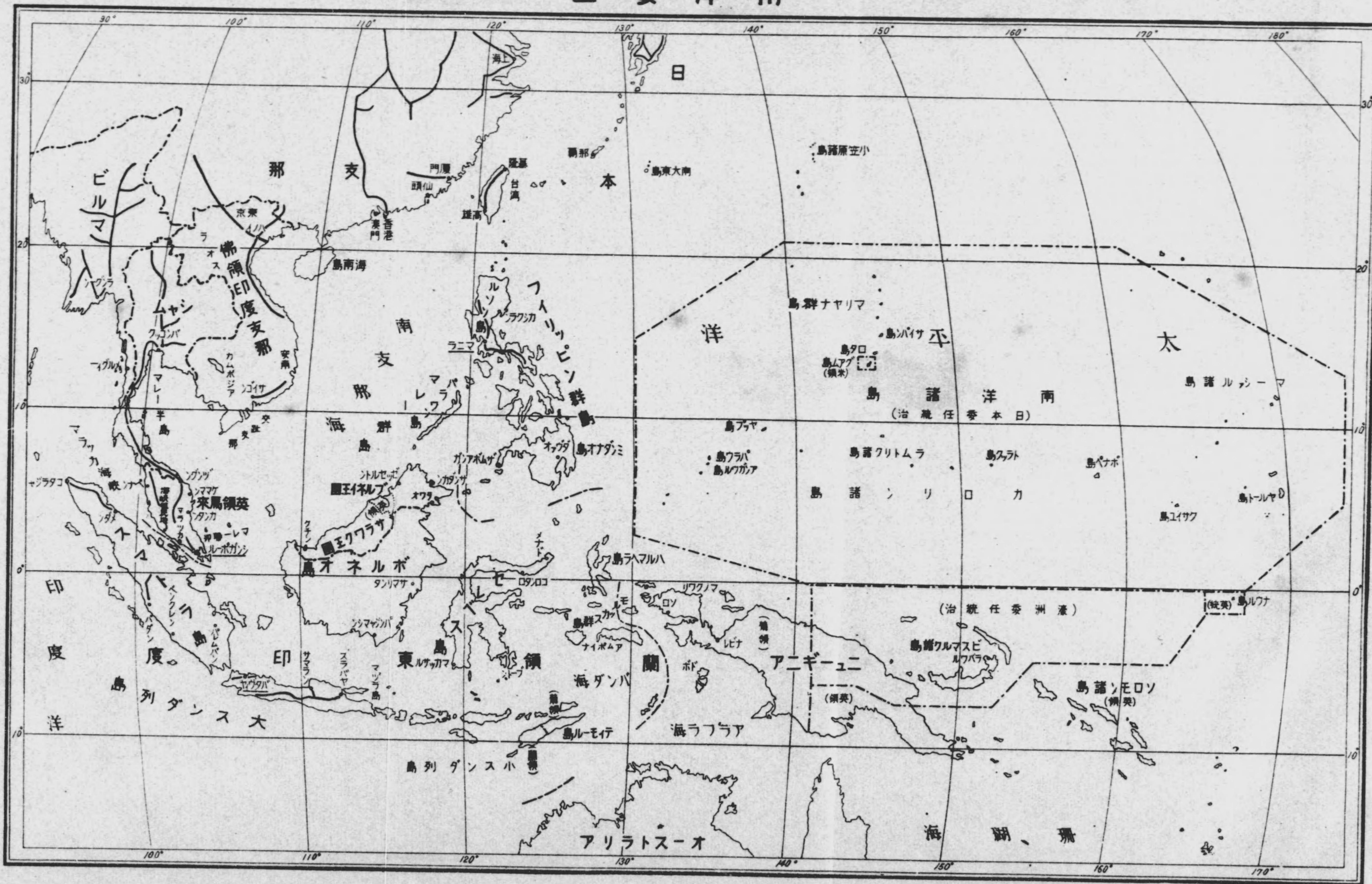
就中産業方面に於ては漁業、鑛業、林業、棉、砂糖等大いに開拓の餘地あり、今や將來發展の基礎を造る可き機會であるも考へられる。

邦人銀行の存在せざる事は我が發展に著しき阻害となつて居る、此方面に於ても速に何等かの對策が講ぜられねばならぬのではあるまいか。

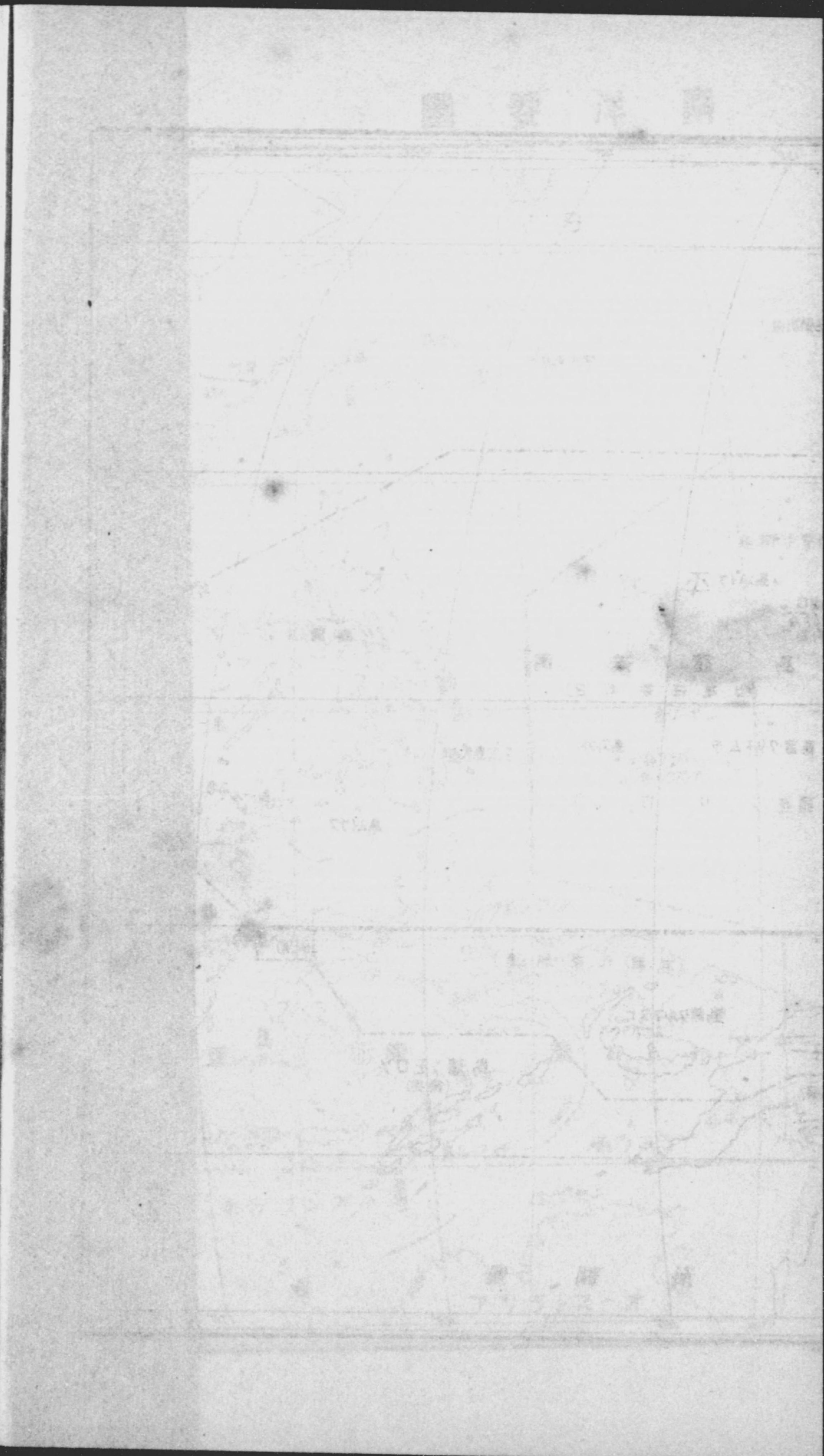
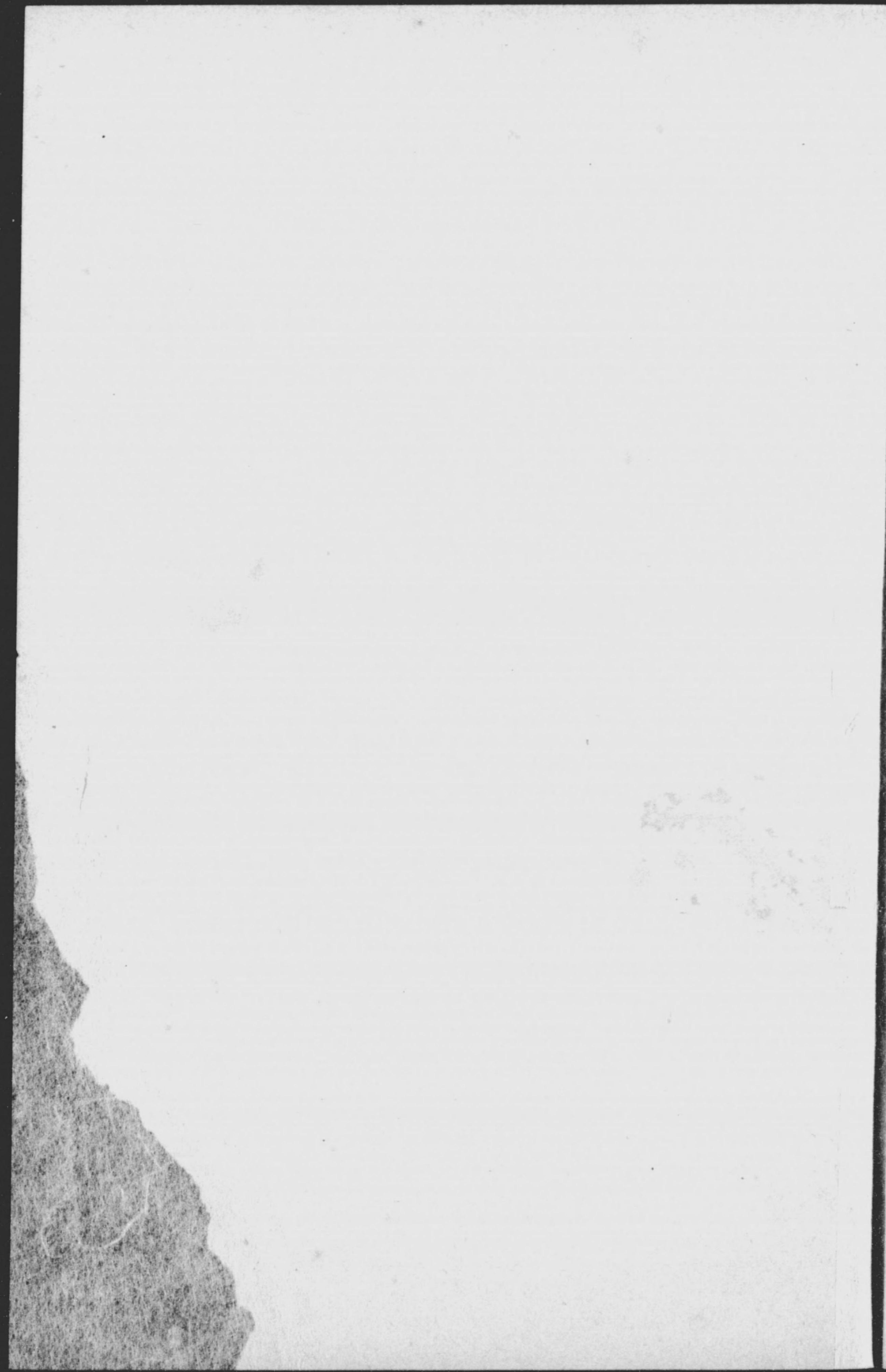




# 南 洋 要 圖



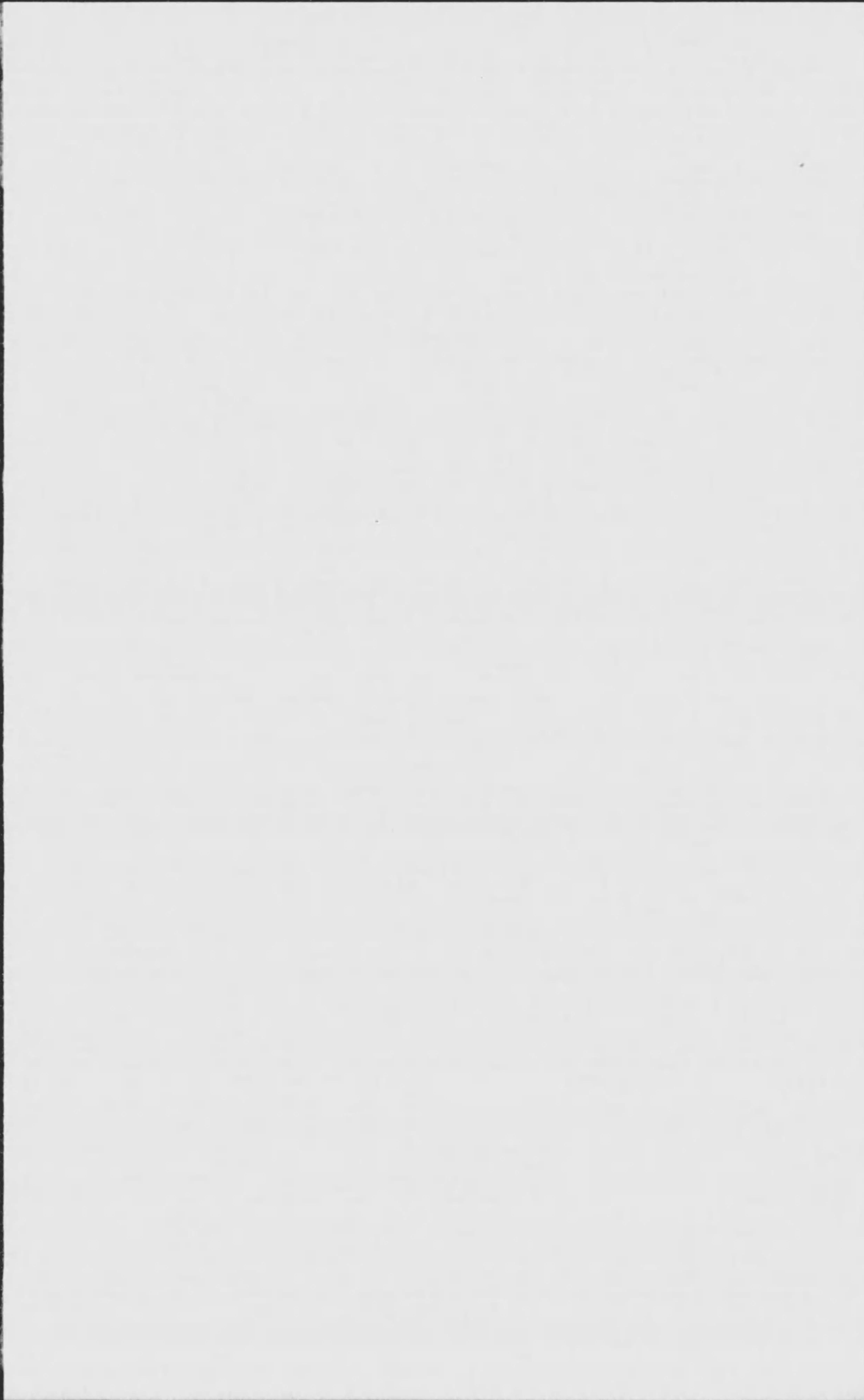
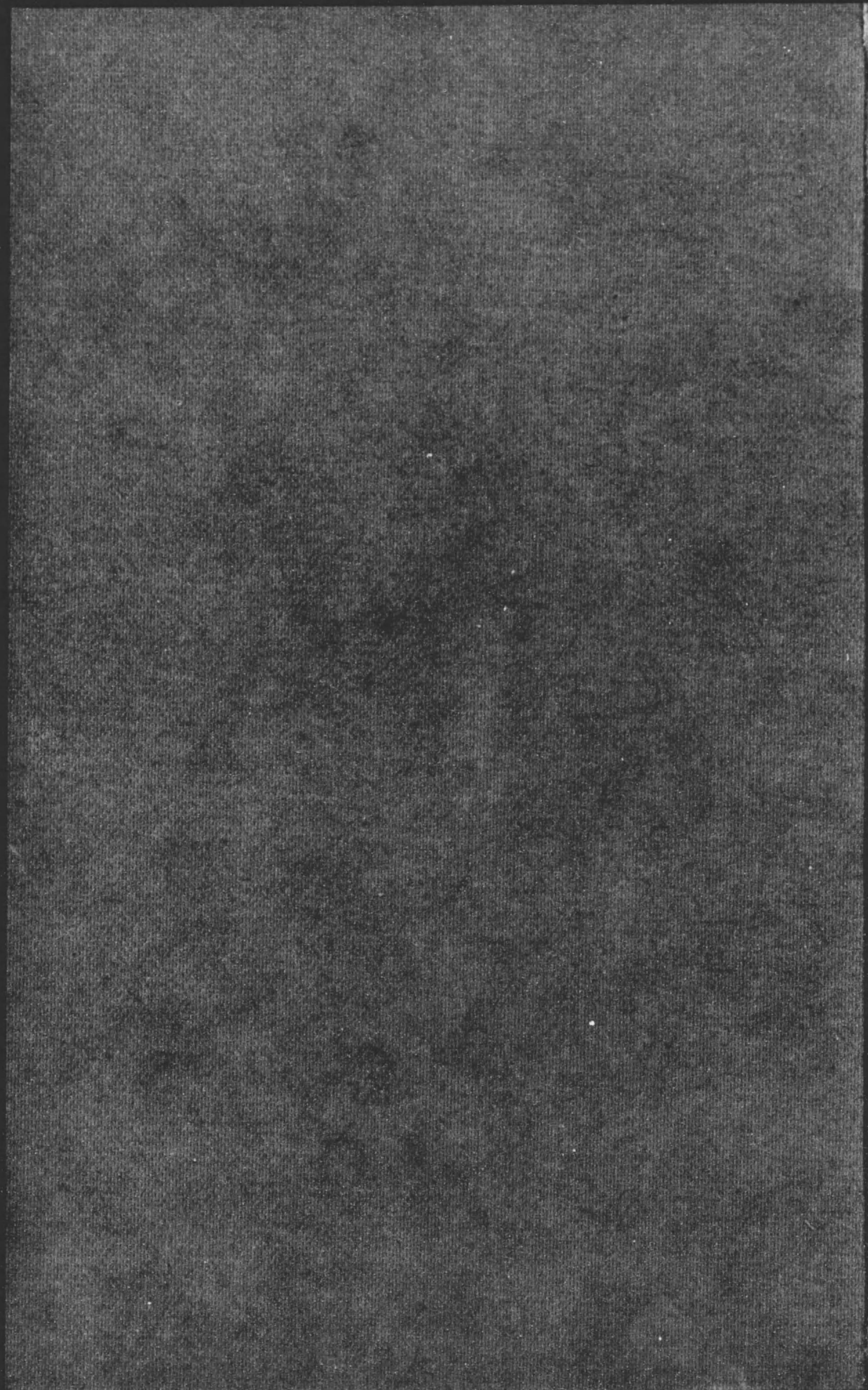






120







11

